

ハスモンヨトウの発生動向に注意しましょう！

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、7月に入ってから急増しており、7月4半旬までの総誘殺数は、県内9調査地点中6地点で平年を上回っています（平年比：143～1127% 各調査地点の誘殺数の推移は[当センターHP](#)を参照下さい）。また、気象状況によっては、さらに発生が増加する恐れがあります。今後、飛来した成虫が大豆や野菜類、花き類に産卵し、孵化した幼虫による食害が懸念されるため、圃場をよく観察して適切な対策をとりましょう。



写真1 いちご葉裏の卵塊



写真3 老齢幼虫



写真2 若齢幼虫の集団と食害による大豆の白変葉

◎ハスモンヨトウ及び被害の特徴

- ・卵塊は、毛に覆われた状態で葉裏に産み付けられることが多い（写真1）。
- ・ふ化間もない若齢幼虫は、すぐには分散せず、集団で葉を加害し、葉の表皮を残して葉肉を食害するため、葉には白～褐色で不整形のカスリ状の食害となる（写真2）。
- ・中～老齢幼虫になると分散して旺盛に食害するため、被害が拡大する（写真3）。

◎防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるため、雑草管理を徹底する。
- ・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
- ・成虫の侵入を阻止するため、施設の開口部や出入り口に防虫ネット（4～5mm目合いが有効とされる）を展張する。また、施設のパイプ等の資材にも産卵することもあるので注意して観察し、卵塊を見つけた場合は潰して除去する。
- ・幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpjn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。